

令和8年度 市民提案型協働事業

廃棄するモノを身近に考える

～地域でつながるサイクルマーケット～

会津を元気にする
会

事業の背景と目的

現状の課題

まだ使える物品が「焼却ごみ」として処理されているケースが多く、資源の有効活用が不十分です。行政の施策に加え、市民一人ひとりの意識と行動の変容が不可欠です。

本事業の目的

- 市民参加型の仕組みで資源循環を促進
- 「暮らし・家計」視点でのごみ問題啓発
- 将来的な地域内流通モデルの社会実証



令和7年度（昨年度）の実績報告

資源回収総量

336kg

焼却処分を確実に回避

延べ参加者数

68名

回収・講演会への合計参加

SNS発信基盤

400人超

若い世代への周知拡大

主要な取り組み

7回の回収拠点を設置し、衣類・家具・雑貨を回収。古着は「もったいない会津」へ寄付し、地域内での再利用（リユース）を実現しました。



実証から見た課題と「次の一手」



⚠ 昨年度の重要課題

回収物の「出口」と「滞留」の問題

回収量が増える一方で、一時的な保管場所の不足や、再流通先へ届けるまでの体制づくりが継続運営のボトルネックとなりました。

令和8年度の解決策

- ✔ 保管場所の常設化
民間貸出倉庫を確保し、仕分け・品質確認を徹底。
- ✔ 出口戦略の確立
リユーススポットの定期開催による「引き取り」の活性化。

令和8年度 事業目標 (KPI)



家庭ごみ有料化開始(2026年4月)に向け、市民の「捨てる方・譲り方」を根本から変える。

① リユーススポット & ゴミゼロゲーム

「モノを救う」体験の創出

不要品の無料回収と提供を月1回開催。先進事例（世田谷）で学んだ「ごみゼロゲーム®」を導入し、子どもたちが遊びながら資源の価値を学べる場を作ります。

実施詳細

- ・ 時期：令和8年7月～1月（全8回）
- ・ 内容：回収＋無料提供＋環境教育ゲーム



② 保管拠点の整備・運営（物流の核）



滞留を防ぐ「保管～再流通」サイクル

昨年の課題であった「出口の弱さ」を、民間倉庫の活用によって解決します。適切な仕分けと保管が、資源の「質」を高め、再流通を加速させます。

主な業務：

- 回収物の戦略的ストック（時期に合わせた提供）
- 品質のスクリーニング（リユース品の信頼向上）
- 再流通先（寄付等）への配分管理

③ SNSによる情報発信の強化

「自分ごと化」を促すデジタル戦略

Instagramを中心に、活動を継続的に可視化。昨年の400人から500人超へフォロワーを拡大し、市民の意識変容をデジタルから支えます。

- 開催情報のリアルタイム周知
- 「リユース事例」の紹介（Before/After）
- 参加者の声を発信し、心理的ハードルを低下



④ 市民意識を深める講演会



テーマ：ごみ減量×家計管理

「ごみは負担」という視点を、「資源は価値」へ変える。日常生活に直結する家計のメリットと結びつけることで、無関心層の参加を促します。

令和8年度 開催予定：

・ 第1回（9月） ・ 第2回（1月）

※リユーススポットと同時開催し、知識と実践をセットで提供

会津若松市との役割分担（協働）

会津を元気にする会

- スポット企画・設営・現場運営
- 民間倉庫の賃借および物品仕分け
- SNS発信・広報物の制作
- 講演会の企画・実施・成果評価

会津若松市（環境共生課）

- 「市政だより」等による公的広報
- 市イベントとの出展調整・連携支援
- 関連機関（廃棄物処理業者等）との調整
- 常設スポット本格導入に向けた検討



まとめ：資源が循環する会津へ



有料化を「社会変化の好機」と捉え、
会津を資源循環のモデル都市へと生まれ変わります。

ご清聴ありがとうございました